

2016年度事業報告書

(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)

2017年5月31日

公益財団法人 旭硝子財団

目次

I. 事業	頁
概況	1
1. 助成事業	
1.1 2016年度助成事業（採択と贈呈）	2
1.2 過年度助成事業（助成研究発表会）	3
2. 顕彰事業	
2.1 2016年度顕彰事業（第25回ブループラネット賞の贈呈）	5
2.2 第25回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査	6
2.3 IUCN World Conservation Congress Hawaii 2016への参加	6
3. 情報・出版関係	
3.1 ホームページの内容更新、ネットワーク活用	7
3.2 刊行物	7
II. 庶務・管理	
1. 理事に関する事項	8
2. 事業報告に関する事項	8
3. 顕彰委員および選考委員に関する事項	8
4. 会議に関する事項	9
III. 会計報告	
1. 貸借対照表	12
2. 正味財産増減計算書	13
3. 正味財産増減計算書内訳表	14
4. 財務諸表に対する注記	15
5. 附属明細書	18
6. 財産目録	19
IV. 監査報告	21

I. 事業

概況

【財団運営の概況】

2016年度は、世の中の動きにも財団の状況にも特記すべき変化は発生せず、おおむね当初の計画に従って事業を遂行できた。

各事業の構造を改め、助成事業では固定額助成から上限金額での応募に切り替え、顕彰事業では大規模な演出を抑えることにより、事業の質を大きく落とすことなく収支バランスを改善した。

【助成事業】

2016年度は採択総額2億5500万円の研究助成を実施した。助成研究が複数年度に亘るため、2016年度の支払総額は、平成28年熊本地震に伴う50万円の追加助成を含め、2億5550万円であった。

海外助成を行っているタイのチュラロンコン大学とキング・モンクット工科大学トンプリ校については6月に、インドネシアのバンドン工科大学については8月に、それぞれ助成金の贈呈式と研究成果の発表会(セミナー)を行った。

7月29日に、今春に終了した国内の全分野の助成研究を対象にした、助成研究発表会を開催した。

2017年度採択の研究助成については、例年同様6月から8月にかけて各プログラムの募集を行い、2月に開催された助成委員会で、自然科学系3分野、人文社会分野、環境フィールド研究、海外への研究助成について採択候補を選定した。

【顕彰事業】

第25回ブループラネット賞は、包括的グリーン経済の発展を加速させたパバン・シュクデフ氏と、野生生物保護や生態系の保全・管理活動の最前線に立ってきたマルクス・ボルナー教授に贈呈された。表彰式典は、11月16日に秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと東京で開催され、式典の翌日には記念講演会が開催された。

第25回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」の調査結果について、9月8日に記者発表を行った。

第26回ブループラネット賞の候補者選考については、7月末にノミネーターに推薦要綱を送付し、10月中旬までに推薦を受理、書面審査を経て、2月に選考委員会を開催した。

2月19日に、BS-TBS放送の「OUR BLUE PLANET～人間と自然が共に生きる社会をめざして」という番組を通じて、ブループラネット賞と受賞者インタビューを国内外に放送した。

【その他事業】

年報その他の定期刊行物については、すべて予定通り発行した。

【財団収支】

2016年度も資産運用の状況は改善せず、経常収益は6億2千6百万円余、対前年度比では2千7百万円余の減少になった。一方支出の方は、経常費用合計で6億5千8百万円余、対前年度比で1千万円余を削減した。しかし収入減とバランスするには至らず、2016年度の評価損益調整前の正味財産増減額は、前年度のマイナス1千5百万円からマイナス3千2百万円と、さらに収支のマイナスが増加する結果になった。

2016年度の正味財産期末残高については、経常増減のマイナス3千2百万円余に基本財産及び特定資産評価損益のプラス88億4千万円余を加えて329億6百万円余となった。評価損益の増加は、主に保有株式の評価額増加によるものである。

1. 助成事業

1.1 2016年度助成事業（採択と贈呈）

1.1.1 助成件数と助成額

2016年度の研究助成の新規採択案は、2016年4月7日に開かれた理事会で承認された。さらに、助成先1件が平成28年熊本地震により被災し助成研究推進に支障がでたため、研究推進のために50万円の追加助成を実施した。

追加助成も加え、継続分と併せた助成件数と金額の内訳を表1に示す。

表1. 2016年度研究助成(新規および継続)一覧

プログラム/分野	応募 件数	助成件数 (件)			2016年度支払金額 (百万円)		
		新規 採択	継続	合計	新規 採択	継続	合計
国内研究助成(A)	701	83	119	202	192.2	46.3	238.5
研究奨励 計	576	63	79	142	117.3	0.0	117.3
第1分野	415	43	54	97	84.8	0.0	84.8
第2分野	89	10	10	20	19.9	0.0	19.9
第3分野	35	5	7	12	8.0	0.0	8.0
人文社会	37	5	8	13	4.6	0.0	4.6
若手継続 計	42	8	16	24	18.0	22.3	40.3
第1分野	29	5	10	15	12.5	16.0	28.5
第2分野	6	1	3	4	2.5	2.5	5.0
第3分野	3	1	2	3	2.0	3.0	5.0
人文社会	4	1	1	2	1.0	0.8	1.8
ステップアップ 計	43	5	11	16	34.9	24.0	58.9
第1分野	29	4	8	12	24.0	18.0	42.0
第2分野	10	1	2	3	10.9	6.0	16.9
第3分野	3	0	1	1	0.0	0.0	0.0
人文社会	1	0	0	0	0.0	0.0	0.0
環境フィールド研究	40	7	13	20	22.0	0.0	22.0
海外研究助成 (B)	89	29	11	40	17.0	0.0	17.0
チュラロンコン大学	24	10	10	20	7.0	0.0	7.0
キングモンクット工科大学	17	5	1	6	3.0	0.0	3.0
バンドン工科大学	48	14	0	14	7.0	0.0	7.0
総計 (A+B)	790	112	130	242	209.2	46.3	255.5

1.1.2 研究助成金贈呈式

1) 国内研究助成金贈呈式

国内の助成に対する研究助成金贈呈式は6月9日(木)、経団連会館に於いて開催された。式には国内の(新規)助成金受領者83名をはじめ、文部科学省ならびに諸団体からのご来賓、当財団の理事、監事、評議員、選考委員、旭硝子(株)関係者等、総計168名の方々が出席した。

2) 海外研究助成金贈呈式

(1) チュラロンコン大学(CU) [タイ]

6月21日に研究助成金贈呈式が開催された。理事長とKiat Ruxrungtham副学長からの挨拶に続いて、今年度の助成対象者10名に理事長より贈呈状の授与が行われた。

(2) キング・モンクット工科大学トンブリ校(KMUTT) [タイ]

6月22日に研究助成金贈呈式が開催された。Bundit Fungtammasan副学長による選考経過の説明、Sakarindr Bhumiratana学長の挨拶、石村理事長の挨拶に続いて、新規助成対象者5名のパネルによる研究予定内容の紹介や贈呈状の授与が行われた。

(3) バンドン工科大学(ITB) [インドネシア]

8月23日、バンドン工科大学(ITB)の講堂において、研究助成金贈呈式が開催された。学長のKadarsah Suryadi 教授、石村理事長の挨拶に続いて、助成対象者14名に贈呈状が授与された。

1. 1. 3 研究助成金の送金

助成金の送金は8月8日までに6回に分けて全135件について完了した。内訳は下記の通りである。

国内送金

4月27日	22件	43,600,000円	
5月19日	38件	82,300,000円	
6月 6日	34件	91,100,000円	
6月29日	7件	12,500,000円	
7月14日	3件	6,000,000円	
8月 8日	2件	2,500,000円	
10月12日	1件	500,000円	(平成28年熊本地震に伴う追加助成)
国内合計	106件	238,500,000円	

海外送金(チュラロンコン大学、キングモンクット工科大学トンブリ校、バンドン工科大学)

6月 3日	29件	17,000,000円	
国内・海外合計	135件	255,500,000円	

1. 2 過年度助成事業 (助成研究発表会)

当財団の助成による研究の成果を広く関係者に知っていただくだけでなく、さまざまな分野の研究者の交流を通じた今後の研究の発展を期待して成果発表会が開かれた。

1. 2. 1 国内助成研究発表会

7月29日(金)に、ホテルグランドヒル市ヶ谷(市ヶ谷駅前)にて、助成研究発表会を開催した。2016年3月に終了した全分野の助成研究(73件)と中間発表(13件)を発表の対象とし、3分間スピーチとポスターセッションにより成果発表や技術討論が行われた。継続型研究助成の対象となる発表者のプレゼンテーションに対して、選考委員の先生方に簡単な評価をして頂いた。発表会終了後の懇親パーティーでは、助成研究者相互や関係者の方々の交歓が行われた。

1. 2. 2 海外助成研究発表会

研究助成金贈呈式と同日に研究成果発表会を以下の通り贈呈先の大学で開催した。

1) タイ・チュラロンコン大学 (CU)

6月21日、研究助成金贈呈式の後に成果発表会(第24回セミナー)が開催された。Dr. Sanong Ekgasit教授による記念講演(研究成果工業化へのタイの大学の新たな挑戦)に引き続き、2つのセッションに分かれて、合計10件の研究成果が発表され、討論が行われた。終了後、キャンパスツアーが行われ、ロボティクス、機器分析の研究室のアクティビティーが紹介された。夕食会では、Kiat Ruxrungham副学長以下のCU関係者と理事長以下の財団関係者の交歓が行われた。

2) キング・モンクット工科大学トンプリ校 (KMUTT)

6月22日の研究助成金贈呈式に続いて成果発表会が開催された。助成が終了した全7件の研究成果が発表された。終了後、Bangkhuntien キャンパスのキャンパスツアーが実施され、環境研究やバイオエンジニアリング施設のアクティビティーが紹介された。夕食会では、Sakarindr学長以下のKMUTT関係者と理事長以下の財団関係者の交歓が行われた。

3) インドネシア・バンドン工科大学 (ITB)

8月23日に、研究助成金贈呈式に先立って成果発表会が開催された。ITB副学長のDr. Bambang Riyanto Trilaksono教授による基調講演に続き、助成が終了した全16件の研究成果が発表され、討論が行われた。夕食会では、Joko Sarwano教授以下のITB関係者と理事長以下の財団関係者の交歓が行われた。

2. 顕彰事業

2.1 2016年度顕彰事業（第25回ブループラネット賞の贈呈）

2.1.1 選考の経過

2016年度ブループラネット賞については、2015年の夏から秋にかけて国内および海外のノミネーターから109件の推薦があった。2015年1月と2月および4月20日の選考委員会で受賞候補者が選定され、4月27日の顕彰委員会にて審議、承認された。安達理事がすべての理事および監事に対して、顕彰委員会からの提案どおりに受賞者を決定する旨の提案を発し、5月13日までに理事の全員から書面により同意の意思表示を、監事の全員から書面により異議がないとの意思表示を得たので、パバン・シュクデフ氏（インド）とマルクス・ボルナー教授（スイス）の受賞が決定した。

パバン・シュクデフ氏（インド）

シュクデフ氏は、包括的グリーン経済に移行するための経済的合理性を有する実用的な測定基準を開発した先駆者である。この移行には企業こそが決定的な役割を果たすことを示し注目を集めた。さらに氏は、公共政策と経済活動に、生態系サービスの価値を如何に組み込むかを示し、持続可能性に向けた基準を企業、地方、国家の各レベルで開発し、包括的グリーン経済の発展を加速させた。

マルクス・ボルナー教授（スイス）

ボルナー教授は、過去40年間、アフリカにおける絶滅寸前の野生生物保護や保護区内生態系の保全・管理活動の最前線に立ってきた。教授は、個々の種の保全には、生態系全域での総合的保全が必要であり、セレンゲティ国立公園の場合はタンザニア国民が生態系の保全に対してコミットし、貢献することが必要であることを看破した先駆者の一人である。活動の指針として、我々が住む惑星を健全に生存させるには、手つかずの自然、種の多様性、自然美が絶対的に不可欠であるという原則を掲げている。

2.1.2 メディアへの発表

6月15日に国内外のメディアに向けて、両受賞者に関する資料を配布する形で記者発表を行った。

2.1.3 表彰式典関連行事

- ◆ 表彰式典ならびに関連行事は下記日程で進められた。

(1) 受賞者歓迎レセプション:

11月15日(火) 18時00分～20時00分

於 開東閣

(2) 表彰式典・祝賀パーティー:

11月16日(水) 15時～16時10分/16時30分～17時30分

於 パレスホテル東京

(3) 受賞者記念講演会:

11月17日(木) 13時20分～17時00分

於 国際連合大学

- ◆ 表彰式典および祝賀パーティーは、11月16日にパレスホテルにおいて、秋篠宮同妃両殿下のご臨席のもと、パバン・シュクデフ氏とマルクス・ボルナー教授を迎えて挙行された。
- ◆ アミット・クマール駐日インド大使館首席公使ならびにジャン＝フランソワ・パロ駐日スイス大使をはじめ、各界を代表する出席者約250名が受賞者の栄誉を称えた。
- ◆ 前日の11月15日には、財団関係者が参加して受賞者を歓迎するレセプションが開東閣で開催された。
- ◆ 記念講演会は、11月17日に国連大学において開催され、200名を越える聴衆を前に、パバン・シュクデフ氏の講演、引き続き受賞者に、武蔵野大学環境学研究科長の一方井誠治教授を交えて質疑応答が行われた。次いで、マルクス・ボルナー教授の講演、引き続き受賞者に、京都大学生態学研究センターの大串隆之教授を交えて質疑応答が行われた。それぞれの活発な質疑応答

答により、受賞の意義及び受賞者の業績への理解が深まった。

2.2 第25回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査

- ◆ 地球環境問題に対する認識を高め、問題解決に向けて有識者がどのように考えているかについての情報を提供するこの調査は、本年25回目を迎えた。環境問題に携わる各国の政府および民間の有識者から寄せられたアンケートの回答数は、6月の締切りまでに、国内394件、海外1,488件、合計1,882件に達した。

2.2.1 調査結果の概要

- ◆ 世界全体の平均危機時刻は9時31分で、2007年と並び1992年の調査開始以来2番目に高い。
- ◆ 日本は昨年より6分戻り9時3分、世界平均より危機意識が低く、東欧・旧ソ連に続き2番目に低い。
- ◆ 危機意識が最も高いのは中東の10時6分、逆に最も低いのは東欧・旧ソ連の8時51分。
- ◆ 回答者の年齢が上がるにつれて、環境危機時刻も上昇傾向がみられる。
- ◆ 「極めて不安」を選んだ回答者は1997年の48%から漸次増加し、本年は70%に至る。
- ◆ 危機時刻を決める上で念頭に置く項目を世界全体でみると、2011年以来一貫して「気候変動」が最も多い。
- ◆ 念頭に置いた項目を危機時刻でみると、昨年同様、「生物多様性」と「環境汚染」が「気候変動」を凌ぎ最も高い。

2.2.2 地球環境問題に関するご意見

- ◆ 本年は、問2を地球環境問題に関するご意見(自由記述)とし、さらにご意見と関連する項目を回答していただいた(複数回答可)。
- ◆ 最も多い項目は「気候変動」であり、「環境汚染」、「生物多様性、水資源」と続いた。

2.2.3 メディアへの発表

9月8日に国内外のメディアに向けて、書面によりアンケート結果の発表と説明を行った。

2.3 IUCN World Conservation Congress Hawaii 2016への参加

ブループラネット賞の認知度向上を目的として、2016年、9月2日から9月10日にかけてハワイで開催された国際自然保護連合(IUCN)主催の「第6回世界自然保護会議(WCC6)」へ出席し、会場に旭硝子財団のブースを出展した。

開催期間中の9月9日には、第25回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果の記者発表を行い、調査結果の説明と2016年の環境危機時計®の時刻の発表を行った。

3. 情報・出版関係

3.1 ホームページの内容更新、ネットワーク活用

定期的なホームページの内容更新は下記の通りである。

表7. ホームページ更新とネットワーク活用の状況

月度	掲載・送信内容
4月	・地球環境アンケート回答者宛電子メールにてWeb回答のご案内を送信
5月	・動画投稿サイト(youtube)にブループラネット賞関連動画を掲載
6月	・2016年度研究助成金受領者名・研究題目リストを掲載 ・2016年度事業報告書等公開資料を掲載 ・第25回ブループラネット賞受賞者を発表
7月	・2017年度研究助成の応募要項と申請書フォームを掲載
9月	・助成研究発表会の要旨集(デジタルブック)を掲載 ・第25回地球環境アンケート結果報告の内容を掲載
11月	・第25回地球環境アンケート調査結果記者発表をライブストリーミングで配信 ・助成研究成果報告2016の内容をホームページに掲載
2月	・第25回ブループラネット賞受賞者記念講演をライブストリーミングで配信 ・第25回ブループラネット賞受賞者記念講演会の動画と講演録を掲載 ・ブループラネット賞広報番組「OUR BLUE PLANET」を掲載

本年度も研究助成にかかわる申請書類の提出と環境アンケート回答について、サーバを經由した電子情報のアップロード/ダウンロード環境を順調に運用している。選考委員による審査についても、一部の委員会からの試用を開始したところである。

3.2 刊行物

当財団の事業活動の実情を内外の諸機関や多くの人々に知っていただくために、各刊行物とも、より一層その内容充実を図っている。

表8. 刊行物の発行時期と部数

刊行物	発行月	部数
年次報告書	2016年 5月	和英 900部
財団パンフレット	2016年 6月	和文 500部、英文 500部
afニュース第51号	2016年 9月	和文 2,400部、英文 1,400部
助成研究発表会 要旨集	2016年 7月	和文 200部
助成研究成果報告2016	2016年 9月	冊子(含CD) 750部
ブループラネット賞パンフレット	2016年 6月	和英 1,000部
第25回地球環境問題と人類の存続に関するアンケート調査結果報告書	2016年9月	和文 850部、英文 1,400部
環境危機時計® オリジナルキャラクターコミック	2016年 11月	和文 500部
第25回ブループラネット賞 受賞者インタビュー抄録	2016年11月	和文 300部

Ⅱ.庶務・管理

1. 理事に関する事項

- (1) 2016年4月22日開催の定時評議員会において、新任の理事2名と任期満了に伴う重任の9名について理事選任の決議が行われ、5月27日付けで東京法務局に理事変更登記の手続きを完了し、6月9日付で内閣府に変更届出書を提出した。

- (2) 2016年4月22日に代表理事の選定について、理事の石村が、理事会決議の目的である事項(代表理事の選出)について理事全員および監事全員に対して提案書を発し、当該提案について2016年5月9日までに、理事15名全員から書面により同意の意思表示を、監事2名全員から異議なしの意思表示を得たので、決議の省略の方法により、当該議案を承認可決する旨の決議があったものとみなされた。5月27日付けで東京法務局に代表理事変更登記の手続きを完了し、6月9日付で内閣府へ代表理事変更届を提出した。

2. 事業報告に関する事項

5月27日付で内閣府に対し、2015年度の事業報告等に係る書類提出した。

3. 顕彰委員および選考委員に関する事項

2016年4月7日開催の第1回通常理事会において、助成委員、顕彰委員の選任(重任)および任期満了に伴う選考委員の選任(新任および重任)が行なわれた

4. 会議に関する事項

1)理事会

開催日/場所	議 事 事 項	結 果
第1回通常理事会		
2016.4.7 三菱クラブ	1. 2015年度 事業報告書案および決算書案 承認の件 2. 2016年度 研究助成金贈呈先案承認の件 3. 2016年度ブループラネット賞贈呈先案承認の件 4. 助成委員および顕彰委員ならびに選考委員選任の件 5. 諸規程等改定の件 6. 評議員会招集の件	原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決
第1回臨時理事会(決議の省略)		
2016.5.9	1. 代表理事(理事長)選任の件	決議があったものとみなされた
第2回通常理事会		
2016.11.28 三菱クラブ	1. 平成28年熊本地震にかかわる追加研究助成実施の件 2. 2016年度事業中間報告書案承認の件 3. 2017年度事業計画書案および予算書案承認の件 4. 定款変更の件 5. 評議員会の決議を要する諸規定等変更の件 6. 評議員会の決議を要さない諸規定等変更の件 7. 臨時評議員会開催の件	原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決

2)評議員会

開催日/場所	議 事 事 項	結 果
第1回定時評議員会		
2016.4.22 三菱クラブ	1. 評議員会議長選任の件 2. 評議員会議事録署名人選任の件 3. 2015年度事業報告書および決算書承認の件 4. 理事会決議報告の件 5. 理事選任の件	原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決
第1回臨時評議員会(決議省略)		
2016.11.28	1. 評議員会議長選任の件 2. 評議員会議事録署名人選任の件 3. 2016年度事業中間報告書承認の件 4. 2017年度事業計画書および予算書承認の件 5. 定款変更の件 (特別決議) 6. 諸規定等変更の件	原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決 原案通り満場一致で承認可決

3)委員会

開催日	分類	議事事項
2016. 3. 16	環境フィールド研究 第1回選考委員会	2017年度採択の募集要項の審議
2016. 3. 24	顕彰委員会	第25回ブループラネット賞受賞候補者の審議
2016. 4. 12	自然科学系第3分野第1回選考委員会	2017年度採択の募集要項の審議
2016. 4. 22	人文・社会科学系第1回選考委員会	2017年度採択の募集要項の審議
2016. 4. 20	ブループラネット賞第3回選考委員会	第25回ブループラネット賞候補者の選考
2016. 4. 27	臨時顕彰委員会	第25回ブループラネット賞候補者の審議
2016. 5. 10	自然科学系第1分野第1回選考委員会	2017年度採択の募集要項の審議
2016. 5. 12	自然科学系第2分野第1回選考委員会	2017年度採択の募集要項の審議
2016. 6. 7	ブループラネット賞第1回選考委員会	第26回ブループラネット賞候補者推薦要項の審議
2016.12.2	第1分野ヒアリング準備委員会	ヒアリング候補者の選考
2016.12.5	第2回第3分野選考委員会	2017年度研究助成採択候補の選考
2016.12.9	第2回環境研究選考委員会	2017年度研究助成採択候補の選考
2016.12.16	第2回人文・社会系選考委員会	2017年度研究助成採択候補の選考
2017.1.12	第2回第1分野選考委員会	2017年度研究助成採択候補の選考
2017.1.24	第2回第2分野選考委員会	2017年度研究助成採択候補の選考
2017.1.31	ブループラネット賞第2回選考委員会(第1部会)	第26回ブループラネット賞候補者の選考
2017.2.2	ブループラネット賞第2回選考委員会(第2部会)	第26回ブループラネット賞候補者の選考
2017.2.6	助成委員会	2017年度研究助成採択候補の選考

Ⅲ. 会計報告

貸借対照表

2017年2月28日現在

公益財団法人 旭硝子財団

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部	(円)	(円)	(円)
1. 流動資産			
現金預金	27,696,842	49,949,456	-22,252,614
預け金	300,000,000	300,000,000	-
有価証券	0	0	-
未収収益	43,811,205	56,177,156	-12,365,951
賞与引当資産	2,960,000	3,370,000	-410,000
流動資産合計	374,468,047	409,496,612	-35,028,565
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	29,172,625,464	21,069,898,906	8,102,726,558
預金	125,915,000	125,915,000	-
基本財産合計	29,298,540,464	21,195,813,906	8,102,726,558
(2) 特定資産			
管理費充当準備金資産	3,228,718,266	2,486,896,189	741,822,077
退職給付引当資産	18,870,000	15,440,000	3,430,000
BPP賞資産	2,000,000	4,000,000	-2,000,000
特定資産合計	3,249,588,266	2,506,336,189	743,252,077
(3) その他固定資産			
差入保証金	7,727,800	7,727,800	-
その他固定資産合計	7,727,800	7,727,800	-
固定資産合計	32,555,856,530	23,709,877,895	8,845,978,635
資産合計	32,930,324,577	24,119,374,507	8,810,950,070
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金(費用)	284,882	898,585	-613,703
未払費用(労務費)	1,790,000	1,687,000	103,000
預り金(社会保険料・税金)	96,104	0	96,104
役員賞与引当金	1,250,000	1,260,000	-10,000
賞与引当金	1,710,000	2,110,000	-400,000
流動負債合計	5,130,986	5,955,585	-824,599
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金	14,590,000	11,870,000	2,720,000
退職給付引当金	4,280,000	3,570,000	710,000
固定負債合計	18,870,000	15,440,000	3,430,000
負債合計	24,000,986	21,395,585	2,605,401
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	1,000,000	1,000,000	-
指定正味財産合計	1,000,000	1,000,000	-
(うち基本財産への充当額)	(1,000,000)	(1,000,000)	-
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	32,905,323,591	24,096,978,922	8,808,344,669
(うち特定資産への充当額)	(29,297,540,464)	(21,194,813,906)	8,102,726,558
(うち特定資産への充当額)	(3,230,718,266)	(2,490,896,189)	739,822,077
正味財産合計	32,906,323,591	24,097,978,922	8,808,344,669
負債及び正味財産合計	32,930,324,577	24,119,374,507	8,810,950,070

正味財産増減計算書

2016年3月1日から2017年2月28日まで

公益財団法人 旭硝子財団

科 目	当年度	前年度	増減
	(円)	(円)	(円)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	566,322,786	590,744,285	-24,421,499
② 特定資産運用益	59,000,251	61,498,565	-2,498,314
③ 指定正味財産からの振替額	136	-	136
④ 雑収益	690,441	805,239	-114,798
経常収益計	626,013,614	653,048,089	-27,034,475
(2) 経常費用			
① 事業費	624,820,131	632,385,149	-7,565,018
助成事業	333,356,161	343,554,036	-10,197,875
研究助成	255,500,000	265,000,000	-9,500,000
助成贈呈式	7,247,165	7,349,674	-102,509
助成成果発表会	5,876,554	6,644,204	-767,650
選考諸費	17,641,083	15,849,461	1,791,622
役員報酬	4,203,300	4,221,900	-18,600
役員退職慰労金及び引当金繰入額	900,000	900,000	-
給料手当及び賞与	26,852,743	28,090,905	-1,238,162
退職給付費用	460,000	730,000	-270,000
情報・出版	2,901,527	2,736,409	165,118
事務所賃借維持費	11,773,789	12,031,483	-257,694
顕彰事業	278,411,122	280,570,390	-2,159,268
顕彰賞金	100,000,000	100,000,000	-
顕彰贈呈式	61,321,017	62,522,783	-1,201,766
記念講演会	6,312,278	9,319,637	-3,007,359
企画広報	46,512,205	50,141,708	-3,629,503
選考諸費	11,440,759	10,449,230	991,529
役員報酬	3,502,750	3,518,250	-15,500
役員退職慰労金及び引当金繰入額	750,000	750,000	-
給料手当及び賞与	36,065,639	31,898,283	4,167,356
退職給付費用	250,000	-90,000	340,000
情報・出版	2,423,286	2,234,744	188,542
事務所賃借維持費	9,833,188	9,825,755	7,433
その他事業	13,052,848	8,260,723	4,792,125
情報・出版	1,480,887	2,072,159	-591,272
地球環境特別懇談会	-	1,014,676	-1,014,676
歴代受賞者論文出版	-	1,469,992	-1,469,992
ブループラネット賞設立+25周年特別事業	7,708,748	-	7,708,748
役員報酬	2,802,200	2,814,600	-12,400
役員退職慰労金及び引当金繰入額	600,000	600,000	-
事務所賃借維持費	461,013	289,296	171,717
② 管理費	33,453,149	36,051,225	-2,598,076
役員報酬	4,702,750	4,718,250	-15,500
役員退職慰労金及び引当金繰入額	1,430,000	1,850,000	-420,000
給料手当及び賞与	8,556,079	9,636,010	-1,079,931
退職給付費用	-	423,000	-423,000
寄附金	1,072,000	1,077,000	-5,000
会議費	2,197,265	1,896,121	301,144
旅費交通費	1,619,925	1,342,310	277,615
情報・出版	291,176	287,148	4,028
事務費	12,349,224	13,531,569	-1,182,345
事務所賃借維持費	1,181,530	1,262,537	-81,007
調査企画費	53,200	27,280	25,920
経常費用計	658,273,280	668,436,374	-10,163,094
評価損益等調整前当期経常増減(-)額	-32,259,666	-15,388,285	-16,871,381
基本財産評価損(-)益等	8,105,978,258	-4,522,742,586	12,628,720,844
特定資産評価損(-)益等	734,626,077	-258,294,609	992,920,686
評価損(-)益等計	8,840,604,335	-4,781,037,195	13,621,641,530
当期経常増減(-)額	8,808,344,669	-4,796,425,480	13,604,770,149
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	-	-	-
役員退職慰労引当金戻入額	-	-	-
経常外収益計	-	-	-
(2) 経常外費用	-	-	-
特定資産評価損(-)益	-	-	-
経常外費用計	-	-	-
当期経常外増減(-)額	-	-	-
当期一般正味財産増減(-)額	8,808,344,669	-4,796,425,480	13,604,770,149
一般正味財産期首残高	24,096,978,922	28,893,404,402	-4,796,425,480
一般正味財産期末残高	32,905,323,591	24,096,978,922	8,808,344,669
II. 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	136	250	-114
基本財産受取利息	136	250	-114
一般正味財産への振替額	-136	-250	114
当期指定正味財産増減(-)額	-	-	-
指定正味財産期首残高	1,000,000	1,000,000	-
指定正味財産期末残高	1,000,000	1,000,000	-
III. 正味財産期末残高	32,906,323,591	24,097,978,922	8,808,344,669

正味財産増減計算書内訳表

2016年3月1日から2017年2月28日まで

公益財団法人 旭硝子財団

科 目	公益目的事業会計					法人会計 (円)	合計 (円)
	研究助成事業 (円)	顕彰事業 (円)	その他の事業 (円)	共通	小計 (円)		
I. 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
①基本財産運用益	-	-	-	566,322,786	566,322,786	-	566,322,786
②特定資産運用益	-	-	-	-	-	59,000,251	59,000,251
③指定正味財産からの振替額	-	-	-	136	136	-	136
④雑収益	-	-	-	-	-	690,441	690,441
経常収益計	-	-	-	566,322,922	566,322,922	59,690,692	626,013,614
(2) 経常費用							
①事業費	333,356,161	278,411,122	13,052,848	-	624,820,131	-	624,820,131
助成事業	333,356,161	-	-	-	333,356,161	-	333,356,161
研究助成	255,500,000	-	-	-	255,500,000	-	255,500,000
助成贈呈式	7,247,165	-	-	-	7,247,165	-	7,247,165
助成成果発表会	5,876,554	-	-	-	5,876,554	-	5,876,554
選考諸費	17,641,083	-	-	-	17,641,083	-	17,641,083
役員報酬	4,203,300	-	-	-	4,203,300	-	4,203,300
役員退職慰労金及び引当金繰入額	900,000	-	-	-	900,000	-	900,000
給料手当及び賞与	26,852,743	-	-	-	26,852,743	-	26,852,743
退職給付費用	460,000	-	-	-	460,000	-	460,000
情報・出版	2,901,527	-	-	-	2,901,527	-	2,901,527
事務所賃借維持費	11,773,789	-	-	-	11,773,789	-	11,773,789
顕彰事業	-	278,411,122	-	-	278,411,122	-	278,411,122
顕彰賞金	-	100,000,000	-	-	100,000,000	-	100,000,000
顕彰贈呈式	-	61,321,017	-	-	61,321,017	-	61,321,017
記念講演会	-	6,312,278	-	-	6,312,278	-	6,312,278
企画広報	-	46,512,205	-	-	46,512,205	-	46,512,205
選考諸費	-	11,440,759	-	-	11,440,759	-	11,440,759
役員報酬	-	3,502,750	-	-	3,502,750	-	3,502,750
役員退職慰労金及び引当金繰入額	-	750,000	-	-	750,000	-	750,000
給料手当及び賞与	-	36,065,639	-	-	36,065,639	-	36,065,639
退職給付費用	-	250,000	-	-	250,000	-	250,000
情報・出版	-	2,423,286	-	-	2,423,286	-	2,423,286
事務所賃借維持費	-	9,833,188	-	-	9,833,188	-	9,833,188
その他の事業	-	-	13,052,848	-	13,052,848	-	13,052,848
情報・出版	-	-	1,480,887	-	1,480,887	-	1,480,887
地球環境特別懇談会	-	-	-	-	-	-	-
歴代受賞者論文出版	-	-	-	-	-	-	-
ブループラネット賞設立+25周年特別事業	-	-	7,708,748	-	7,708,748	-	7,708,748
役員報酬	-	-	2,802,200	-	2,802,200	-	2,802,200
役員退職慰労金及び引当金繰入額	-	-	600,000	-	600,000	-	600,000
事務所賃借維持費	-	-	461,013	-	461,013	-	461,013
②管理費	-	-	-	-	-	33,453,149	33,453,149
役員報酬	-	-	-	-	-	4,702,750	4,702,750
役員退職慰労金及び引当金繰入額	-	-	-	-	-	1,430,000	1,430,000
給料手当及び賞与	-	-	-	-	-	8,556,079	8,556,079
退職給付費用	-	-	-	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-	-	1,072,000	1,072,000
会議費	-	-	-	-	-	2,197,265	2,197,265
旅費交通費	-	-	-	-	-	1,619,925	1,619,925
情報・出版	-	-	-	-	-	291,176	291,176
事務費	-	-	-	-	-	12,349,224	12,349,224
事務所賃借維持費	-	-	-	-	-	1,181,530	1,181,530
調査・企画費	-	-	-	-	-	53,200	53,200
経常費用計	333,356,161	278,411,122	13,052,848	-	624,820,131	33,453,149	658,273,280
評価損益等調整前当期経常増減(-)額	-333,356,161	-278,411,122	-13,052,848	566,322,922	-58,497,209	26,237,543	-32,259,666
基本財産評価損(-)益等	-	-	-	8,105,978,258	8,105,978,258	-	8,105,978,258
特定資産評価損(-)益等	-	-	-	-	-	734,626,077	734,626,077
評価損(-)益等計	-	-	-	8,105,978,258	8,105,978,258	734,626,077	8,840,604,335
当期経常増減(-)額	-333,356,161	-278,411,122	-13,052,848	8,672,301,180	8,047,481,049	760,863,620	8,808,344,669
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	-	-	-	-	-	-	-
(2) 経常外費用							
経常外費用計	-	-	-	-	-	-	-
当期経常外増減(-)額	-	-	-	-	-	-	-
当期一般正味財産増減(-)額	-333,356,161	-278,411,122	-13,052,848	8,672,301,180	8,047,481,049	760,863,620	8,808,344,669
一般正味財産期首残高	-	-	-	-	21,150,501,796	2,946,477,126	24,096,978,922
一般正味財産期末残高	-	-	-	-	29,197,982,845	3,707,340,746	32,905,323,591
II. 指定正味財産増減の部							
基本財産運用益	-	-	-	-	-	-	-
基本財産受取利息	-	-	-	136	136	-	136
一般正味財産への振替額	-	-	-	136	136	-	136
当期指定正味財産増減(-)額	-	-	-	-	-	-	-
指定正味財産期首残高	-	-	-	-	1,000,000	-	1,000,000
指定正味財産期末残高	-	-	-	-	1,000,000	-	1,000,000
III. 正味財産期末残高							
					29,198,982,845	3,707,340,746	32,906,323,591

財務諸表に対する注記

1 継続事業の前提に関する注記

該当ありません。

2 重要な会計方針

① 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 債券金額と異なる価額で取得した債券で、当該差額が金利の調整と認められるものは、償却原価法によっている。

その他の有価証券

時価のあるもの… 決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）によっている。

時価のないもの… 移動平均法による原価法によっている。

② 引当金の計上基準

役員賞与引当金… 役員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

賞与引当金… 従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

役員退職慰労引当金… 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

退職給付引当金… 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において要支給額を計上している。

③ 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3 基本財産及び特定資産の増減額及び残高

基本財産及び特定資産の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

勘定科目	2016年度期首残高	2016年度増加額	2016年度減少額	2016年度期末残高
【基本財産】				
投資有価証券	21,069,898,906	9,505,978,258	1,403,251,700	29,172,625,464
預金	125,915,000	0	0	125,915,000
小計	21,195,813,906	9,505,978,258	1,403,251,700	29,298,540,464
【特定資産】				
管理費充当準備金資産	2,486,896,189	1,641,822,077	900,000,000	3,228,718,266
退職給付引当資産	15,440,000	4,390,000	960,000	18,870,000
B P P 賞資産	4,000,000	-	2,000,000	2,000,000
小計	2,506,336,189	1,646,212,077	902,960,000	3,249,588,266
合計	23,702,150,095	11,152,190,335	2,306,211,700	32,548,128,730

4 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

勘定科目	2016年度期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
【基本財産】				
投資有価証券	29,172,625,464	-	(29,172,625,464)	-
預金	125,915,000	(1,000,000)	(124,915,000)	-
小計	29,298,540,464	(1,000,000)	(29,297,540,464)	-
【特定資産】				
管理費充当準備金資産	3,228,718,266	-	(3,228,718,266)	-
退職給付引当資産	18,870,000	-	-	(18,870,000)
B P P 賞資産	2,000,000	-	(2,000,000)	-
小計	3,249,588,266	-	(3,230,718,266)	(18,870,000)
合計	32,548,128,730	(1,000,000)	(32,528,258,730)	(18,870,000)

5 担保に供している資産

該当ありません。

6 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当ありません。

7 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当ありません。

8 保証債務等の偶発債務

該当ありません。

9 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

種類	帳簿価額	時価	評価損益
国債、地方債	1,503,102,800	1,704,040,000	200,937,200
電力、ガス債	299,825,800	304,510,000	4,684,200
事業債	2,843,072,500	3,024,170,000	181,097,500
外国債・仕組債	5,009,244,200	5,069,190,000	59,945,800
合計	9,655,245,300	10,101,910,000	446,664,700

10 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当ありません。

1.1 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	136
合 計	136

1.2 関連当事者との取引の内容

該当ありません。

1.3 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務及びその内訳

① 退職給付債務 Δ 4,280,000円

② 退職給付引当金 Δ 4,280,000円

(3) 退職給付費用に関する事項

① 勤務費用 710,000円

② 退職給付費用 710,000円

(4) 退職給付債務等の計算に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

1.4 重要な後発事象

該当ありません。

附属明細書

1 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産について、財務諸表に対する注記3 に記載をしているので内容の記載を省略する。

2 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
役員賞与引当金	1,260,000	1,250,000	1,260,000	-	1,250,000
賞与引当金	2,110,000	1,710,000	2,110,000	-	1,710,000
役員退職慰労引当金	11,870,000	3,680,000	960,000	-	14,590,000
退職給付引当金	3,570,000	710,000	-	-	4,280,000

財産目録

2017年2月28日現在

公益財団法人 旭硝子財団

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
			(円)
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	普通預金	三菱東京UFJ銀行 本店/丸の内支店	25,580,212
		三菱UFJ信託銀行 本店	2,116,630
預け金	預託金	旭硝子	300,000,000
未収収益	未収債券利金		43,811,205
賞与引当資産	定期預金	三菱UFJ信託銀行 本店	2,960,000
流動資産 合計			374,468,047
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	公社債等		9,115,245,300
	旭硝子株式	21,848,998株 @918円	20,057,380,164
預金	定期預金	三菱東京UFJ銀行 丸の内支店	25,915,000
	定期預金	三菱UFJ信託銀行 本店	100,000,000
基本財産 合計			29,298,540,464
(2) 特定資産			
管理費充当準備金資産			
投資有価証券	公社債		540,000,000
	旭硝子株式	2,928,887株 @918円	2,688,718,266
退職給付引当資産	定期預金	三菱UFJ信託銀行 本店	18,870,000
BPP賞資産		BPPトワイ-1年分2本(K&M社)	2,000,000
特定資産 合計			3,249,588,266
(3) その他固定資産			
差入保証金		日本生命保険相互会社	7,727,800
その他固定資産 合計			7,727,800
固定資産 合計			32,555,856,530
資産 合計			32,930,324,577
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金(費用)		諸経費	284,882
未払費用(労務費)		役員従業員の給与	1,790,000
預り金(社会保険料・税金)		源泉所得税、地方税、社会保険料	96,104
役員賞与引当金		役員に対する賞与の支払に備えたもの	1,250,000
賞与引当金		従業員に対する賞与の支払に備えたもの	1,710,000
流動負債 合計			5,130,986
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金		役員に対する慰労金の支払に備えたもの	14,590,000
退職給付引当金		従業員4名に対する退職金の支払に備えたもの	4,280,000
固定負債 合計			18,870,000
負債 合計			24,000,986
正味財産 合計			32,906,323,591

IV. 監查報告

監査報告書

2017年3月22日

公益財団法人 旭硝子財団
理事長 石村 和彦 殿

公益財団法人 旭硝子財団

監事 三木 繁光 (印)

監事 寺島 孝 (印)

私たち監事は、定款第26条の定めに基づき、2016年3月1日から2017年2月28日までの事業年度における会計及び業務執行状況の監査を行いましたので、次のとおり報告します。

1. 監査方法

- (1) 会計については、帳簿及び関係書類を閲覧するなど必要と思われる手続きを行って計算書類の正確性を監査しました。
- (2) 業務の執行については、理事会及びその事業に出席し、理事から執行状況を聴取するなど必要と思われる手続きを行って業務執行の妥当性を監査しました。

2. 監査意見

- (1) 計算書類は、会計帳簿の記載金額と一致し、年度末における財産の状況を正しく表示しているものと認めます。
- (2) 事業報告の内容は適正であると認めます。
- (3) 理事の職務執行に関して、不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上